


第2回 保育運営体制部会資料

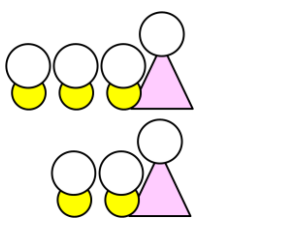
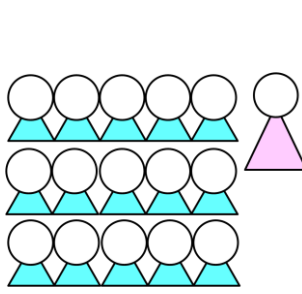
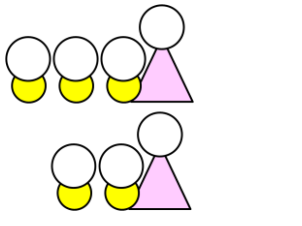
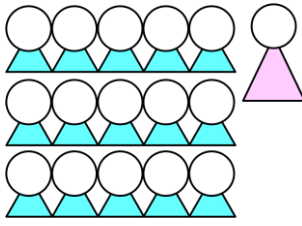
子育て支援課

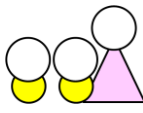
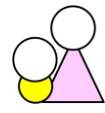
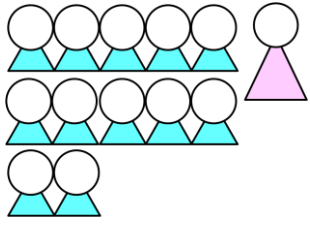
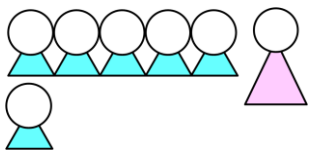
保育士及び園児数の推移（イメージ）



未満児
 幼児
 保育士

未満児3人で保育士1人、以上児15人に保育士1人を基準としてあります。

保育園	園児、保育士の人数の変化と運営費		課題等
A 保育園 園児数が増加していく保育園	未満児	 <p>保育士2人、園児5人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未満児の2人の増加が、保育士人数の増につながる。 ・ 配置基準15人に3人増えると、保育士が2人、必要となる。
	幼児	 <p>保育士1人、園児15人</p>	
	経費	人件費↑、施設維持費→、光熱水費→、給食材料費↑	
B 保育園 園児数が減少していく保育園（I）	未満児	 <p>保育士2人、園児5人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の減少が必ずしも保育士の減につながらない。
	幼児	 <p>保育士1人、園児15人</p>	
	経費	人件費→、施設維持費→、光熱水費→、給食材料費↓	

C 保育園 園児数が減少していく保育園(Ⅱ)	未満児	 保育士 1 人、園児 2 人	 保育士 1 人、園児 1 人	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの減少が著しい保育園は、存続が危ぶまれる。 ・子どもの人数が減少しても、「0」でない限りは保育士が配置され、効率は良くない。
	幼児	 保育士 1 人、園児 2 人	 保育士 1 人、園児 6 人	
	経費	人件費→、施設維持費→、光熱水費→、給食材料費↓		

施設維持費や光熱水費は、休園や廃園がなければ大きな減少にはなりません。

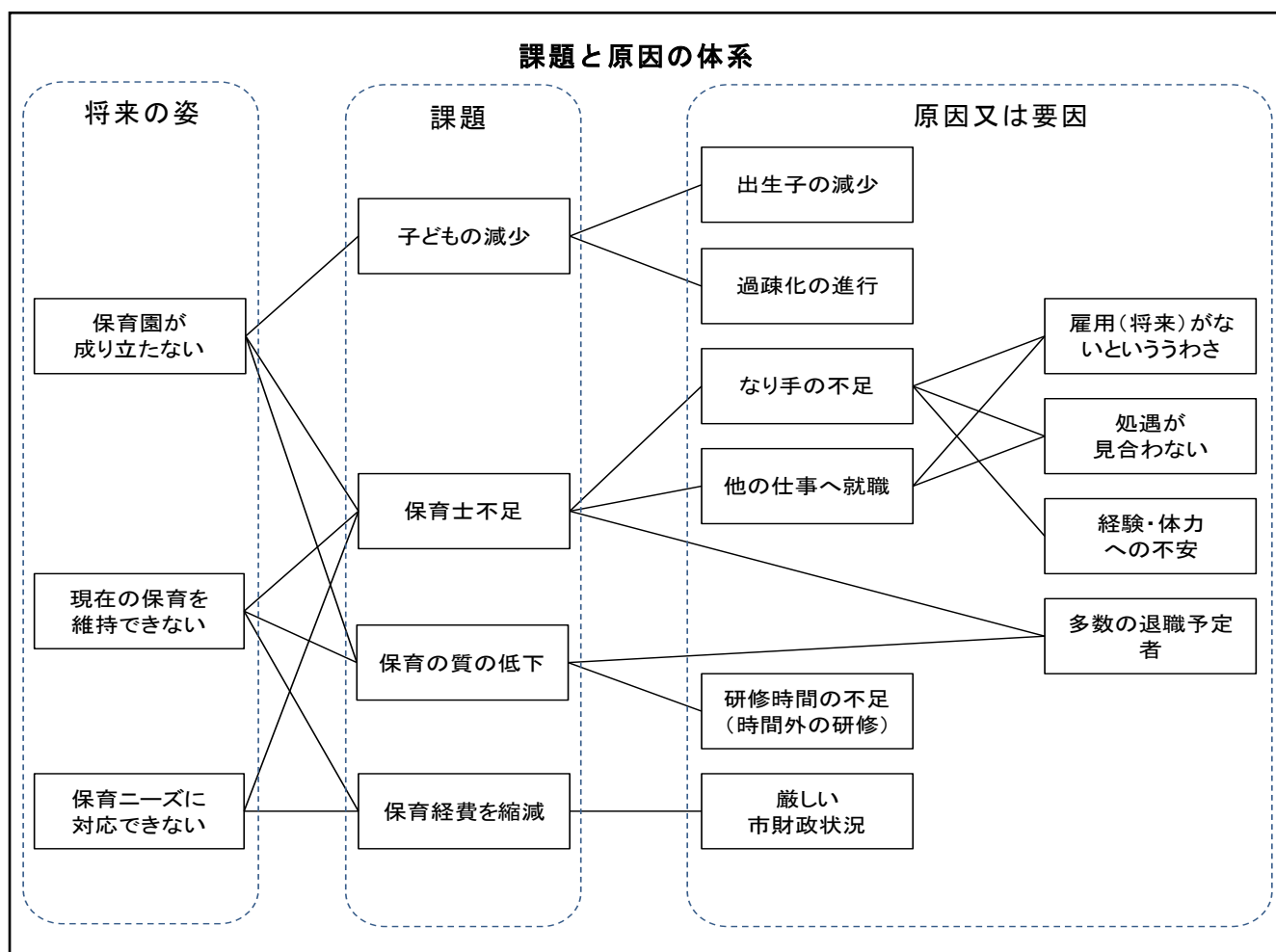
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳
伊那市	3	5	6	15	27	30
国	3	6	6	20	30	30

前回部会における課題の整理

前回部会において出された課題を整理したものです。

- 園児数は今後も減少傾向である。
- 未満児の割合が増加するため、必要とする保育士の人数は減らない。
- 多数の退職者が見込まれる一方、保育士のなり手不足という状況がある。
- 園児数の減少により、地域によっては保育園の存続が危ぶまれる状況である。
- 保育サービスのより一層の充実が求められている。(病児保育、保育時間の延長等)
- 保育の質の向上が求められている。

「将来的には、保育園が成り立たなくなる日が来るのではないか」(前回会議でのご意見)



<第2回 部会の論点>

目指すことは、「子どもが減っていく将来にあっても、保育園を存続させること」

保育士にとっては、仕事場である保育園を存続させることで、「将来にあっても安心して働き続けられること」ができ、その安心感は保育士のなり手の確保や保育の質の向上、ニーズへの対応につながる。

しかし、事業の効率化により保育経費の縮減が求められる公立運営では、特に小さな保育園において存続が難しい。